

# イネ縞葉枯病の発生が増加しています！！

平成 29 年9月  
芳賀農業振興事務所

近年、芳賀地方においてイネ縞葉枯病の発生が拡大しており、減収するほ場も出ています。ヒメビウンカが媒介するウィルスが原因であり、発病すると縞状の病斑を生じて株が枯死したり、穂が出すくんだり不稔となってしまいます。この病気は、発病してからでは治療できません。

被害を受けている南部地区では、箱施用剤に加え・本田での防除の実施や病気にかからない抵抗性品種への転換が始まっています。

- ◆ 抵抗性なし（病気にかかる）「コシヒカリ」「なすひかり」
- ◇ 抵抗性あり（病気にかからない）「とちぎの星」「あさひの夢」

直近3ヵ年(26～28年)の10月調査では、収穫後の再生稲の発病株率は以下の表のとおりとなっています。再生稲の発病株からもヒメビウンカがウィルスを獲得し、次年産で病気が拡大する可能性があります。

なお、前年の黄熟期に発病株率が10%を超えるほ場は、地域での防除が必要です(栃木県農作物等病虫害雑草防除指針より)。【参考:穂揃期から乳熟期に発病株が14～15%あると約5%の減収、23～24%で約10%減収する可能性があります。】

## 《 収穫後～育苗前までにできる対策 》

- ・稲の収穫後は、速やかにヒメビウンカのエサとなる再生株をすき込みましょう。
- ・うちの田んぼでも見られたと言う方は「とちぎの星」などに品種転換しましょう。

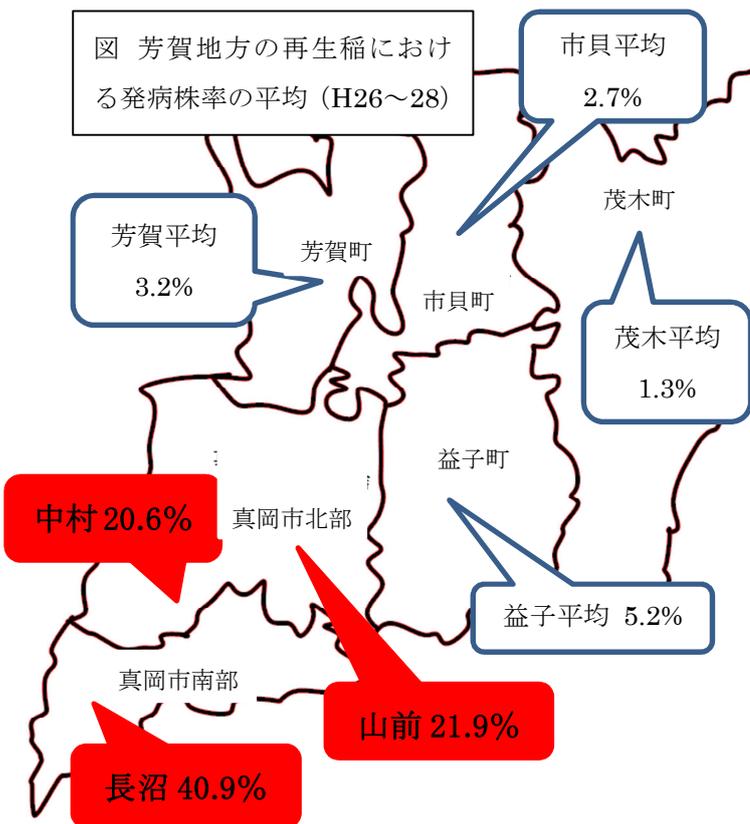


表 再生稲における稲縞葉枯病発病調査結果(%)

市町名	地区名	H26	H27	H28	平均		
真岡市	長沼	長沼 他	37～62	35～45	18～57	40.9	
	久下田	大根田 他	12	15	28～33	22.2	
	物部	鹿 他	22	11	7～11	12.9	
	中村	若旅 他	21～26	10～24	17～25	20.6	
	大内	飯貝	9	11	6	8.5	
	山前	東沼	34	22	9	21.9	
	真岡	東郷	22	5	10	12.3	
		平均	29.6	22.1	24.3	25.2	
	益子町	益子	益子	6	3	5	4.6
		七井	大沢	1	5	6	3.8
田野		上山	4	6	12	7.2	
		平均	3.6	4.3	7.7	5.2	
茂木町	茂木	神井	1	1	1	1.0	
	逆川	下飯	2	1	2	1.6	
		平均	1.4	1.2	1.3	1.3	
市貝町	市塙	赤羽	3	3	5	3.5	
	小貝	文谷	1	2	3	2.0	
		平均	2.0	2.2	4.0	2.7	
芳賀町	祖母井	下延生	0	1	4	1.5	
	南高	芳志戸	4	0	1	1.9	
	水橋	西高橋	7	2	10	6.2	
		平均	3.7	0.9	5.1	3.2	

※ JAはが野、共済芳賀支部、芳賀農振調べ  
 ※ 各ほ場300株を10月に調査  
 ※ 各年度の調査ほ場は同一ではない。  
 ※ 長沼、久下田、中村地区は複数地点の調査